

“ふじのくに”士民協働事業仕分け結果（事業別個表）

事業番号	5	事業名	がん総合対策推進事業費
------	---	-----	-------------

1 基本情報

実施日／班名	10月13日 第1班	時間	15:22～16:32
担当課名	健康福祉部疾病対策課	事業費	217,113千円

2 判定結果

結 果		県民評価者 判定内訳(人)			
県の関与必要 (現行・拡充)	判定区分	県の関与不要	0		
		県の関与必要	28	見直し・縮小	7
				現 行・拡充	21
	判定理由	結果と同一区分を判定した県民評価者の主な判定理由（人、複数回答有）			
		現行どおり実施すべき			12
事業内容を充実し事業費を増額すべき			10		

3 具体的な見直し・改善策又はその他意見

<p>【県の関与必要（見直し・縮小）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業や市町でも毎年、健康診断、検診が実施されている。防煙下敷きを配布しただけで肺がん死亡者が減少するとは思えない。がん予防方法の講演会などは、多くの地域(狭い範囲)で実施した方がいいのでは。 ・がん検診でがんは発見できるが、がんの患者数は減らないと思います。がんにならないような指導はしないのでしょうか(食生活、食品等)。検診で早期発見者が増えても、医療費が増えるだけではないでしょうか。 ・「静岡がん会議」は対世界なので、国の補助があればいいと思いました。 ・目的ががんによる死亡者を減らすとなっているが、これは誤り(事業の必要性の裏返しから)。唯一あるとすれば、小学5年生に配布する防煙施策が結実することから肺がんの発症が抑制されるかどうか。目的はがんの早期発見に寄与することで、「早期の対症治療が可能」とすべき。本事業は多くの権限を市町への移譲で十分と思われる。早期発見で発症予防ができるがんは乳がんくらいだと思っている。その他のがんは、進行が抑えられる程度で治らないものと思っている。 ・小学校5年生にたばこ対策として下敷きを配るのはよいと思います。小学生くらいに学んだことは案外ずっと記憶に残っているので。県ができるがん対策だと、専門家を呼んで知識を高めるといのが多く見られましたが、あまりにも高いお金をかけて海外の専門家を呼ぶまでのことをする必要はあるのかと感じました。 ・たばこ対策は下敷きのみ？ほかにいろいろと検討ができるのでは。
--

- ・がん検診対策における目標値が高いのでは。実現させるならば検診等の通知の告知方法を検討すべきでは？
- ・各事業に支払う金額が不明瞭(本当にその事業に記載されている金額がかかるのか？というのが何点かある)。
- ・企業へは受診の啓発はできるが、それ以外の公的保険者の受診の勧めを発案し進めてほしい(医療費の軽減につながる)。

【県の関与必要（現行・拡充）】

- ・指定病院を増やすことは出来ないのか。
- ・中東遠地区に病院が少ないと思います。
- ・病気(がんを含め)の事は詳しくありませんので、早期発見、がんになった場合の色々な負担が軽減されることを願います。
- ・がん検診を受けていないのですが、乳がん、子宮がんの検診で、恥ずかしくない状態で受けられるようになることを望みます。
- ・たばこ対策に 3,550 千円の費用を使っている。禁煙が進んで喫煙場所が少なくなって自然と喫煙者は減ってくるのではないかと思います。保健体育の時間帯でポスターを掲示して周知すれば下敷きを支給してまでの教育は必要ないと思います。
- ・死亡数の1/3をがんによるものと理解しました。いつか自分の体ががんになる可能性もあり、がん医療の均てん化を進め、県立がんセンター以外でも安心して受診できるようにしてください。
- ・下敷きが話題になりましたが、これは子どもにも大人にも効果があります。しかも、カラーの写真でグロテスクな肺を見ると“タバコは害”という意識は確実に心に刻まれます。教科書よりもインパクトがあり、意外と下敷きのことは忘れません。草の根運動のようなものです。しかも肺がんは男性の中で1位を占めている怖い病気です。実際私が経験したことです。是非この啓蒙活動を続けてください。
- ・常に実態に合わせた目標値設定を精査し、より受診率を高めるよう県も更なる協働で周知するようにして、質の高い検診・治療を受ける環境を整えて欲しい。均てん化が高くても受診しなければ早期発見・治療は難しくなるので。
- ・たばこについては、事業番号2(地域別)の情報も横展開した対策も進めて欲しい。
- ・最近の医療の進歩は目覚ましいものがあります。健康長寿の在り方も日進月歩だと思えます。よい自然環境の中で財政指数が上位にある静岡県でそれなりに色々努力して下さっていますが、後は本人一人一人の自覚をどのように高めていくかだと思います。昔から「病気は気の病い」と言われ、本人の意思力が一番大切です。医者はそれを助けることしか出来ません。そのことは年を取ってからでは後の祭りです。早期に気づかせる方法を考え実践してください。
- ・内容をもう一度検討し有意に使って欲しい。
- ・医療の進歩により早期発見できれば、拠点病院でなくても十分な治療を受けることが可能です。そのための検診率向上に向けた取組は、まだまだ不十分です。
- ・可能な限りの強制と費用補助の一層の充実を図ってください。(直接関与はできないと思いますが)
- ・地域別の検診率の違いはありますか？特定の地域で低いのであればそこを強化し、また高い地域があればその要因を分析し、他地域へ展開するような取組を望みます。
- ・自分自身ががんの経験があるため、非常に興味深く聞きました。早期発見により、簡単な手術で対処できました。検診の重要性はどれだけ強調してもしすぎることはありません。効率を高めることは必要ですが、ぜひ、より充実した体制を整えられるように推進してください。拠点病院はもちろんのこと、町の個人医院にも先進的な情報提供を進めてほしいです。そこまでして、初めて均てん化できたことになると思います。

- ・がん医療は二面あって、患者の治療と予防医療が主な役割だと思う。検診受診率の増加をする必要と、がん治療後のケアが必要。富士市は人口約26万人の割にはあまりよくないと感じている。個人クリニックに行って検査などの結果、大きな病院、がん医療を専門にやっている病院に行く。病院の格差はあるのか。たばこ対策の下敷きは不要。
- ・がん治療は必要だが、人間はがんだけで死ぬのではないので、ストレス等の精神面をこれから重点的に補っていく医療が目標ではないかと感じる(もちろん、がん対策は必要)。
- ・たばこ対策として小学生に下敷きを配布する3,550千円は無駄だと考える。
- ・自分や身近な人ががんが見つかった場合、やはり県のがんセンターを受診したいと考えてしまう。地元の拠点病院がどれほどの能力を備えているか、研修でレベルアップがされた後は、住民に知らせる必要があると思います。実際、がんセンターの順番待ちをしている間に地元病院を受診して亡くなった方の家族は「がんセンターに行っていたら」という思いを残します。拠点病院として、信頼性を高める努力をお願いしたいです。
- ・がん検診にかかる金額を小額にしてほしい。治療しながら安心して働けるように考えてほしいです。
- ・早期発見—地区の検査方針を確立して早期発見の検診率の引上げを図られたい。県の指導強化。
- ・がんの早期発見について、検診受診率の現状に対して目標が高すぎると思う。がんは早期発見が非常に大切であり早期治療を始めることが有効であると分かっているのであれば、受診率を上げるのが早期発見に繋がるのではないかと。しかし現状20%~30%台の受診率から約2倍の受診率にするには相当のことであると思うので、現実的に目標を決め、可能な範囲で達成していくことが大切だと思う。
- ・がんセンターは東部にあり、西部からは遠い。遠い将来、西部にも欲しい。